

家族を「つなぐ」お米

広島市立日浦中学校

三年

白根

楓太

私の家ではお店でお米を買ったことがある

ませんが、いつもとても美味しいお米を食べ

ることができています。それは親戚やその知

り合いの方などとの協力によって成り立た

ています。

「今年はお米週の日曜にするから」と祖母が

言うともうそんな時期かと実感させられます。

その言葉を聞くのは毎年五月頃でその時期は

「広島市立日浦中学校原稿用紙」

進級した直後で責任を感じさせるからです。

私は自分ではあまり責任感がない方だと思

っています。勢いで発言や行動に責任を持て

ないことが多く、反省し直すバキところだと

思っています。すがなかなか治りませんでした。

しかもそこに進級という責任感を持たせる出

来事が重なるので毎年小さな悩みとなります。

私が責任感について深く考えるようになった

たのは田植えに本格的に参加するようになった

てからです。それまでの私は親戚と話すため

「広島市立日浦中学校原稿用紙」

に田植えに行っているようなものでした。ですが、集まる人数が減ったことで、自分も動かなくてはいけないことと親戚が美味しいお米を食べられるようになるようにしてはいいかなと。の二つの責任を感じるようになりました。ですがそれは他の親戚も同じであることに気づきました。毎年親戚全員が美味しいお米を食べられるように、責任を持って丁寧に作業をしてくれていた親戚には、今まで以上の感謝や責任を持って、いることのかっこよさを感じるようにになりました。

そしてその姿を見習おうと決心した私は行動を変えました。自分から積極的に田んぼを周り、苗を植え、声かけやサポートをし、力にたれるように、親戚に美味しいお米を食べてもらえるように意識し行動しました。

家族で、今日のお米、おいしいね。と話したり、買ったのよ、おいしいわ。というセリフが、会話で出て、びいちゃん、はすごいなと思いう機会が増えて、毎年新米が食べられる時期

になるとお米に関する会話が增え食卓も明るく好みます。
それから毎日当たり前のように食べられて
いるお米には祖父や祖母、その他の親戚への感謝の気持ちが強まりました。『ただき
ます。』『さうさまでした。』という理由、
いつでも美味しいお米が食べられている理由
に『いつか考えた』『お米以外にもいろんな野菜
を作つて分けてくれる祖父の責任感ある姿
を見習いたい』と思うようになりました。

【広島市立日浦中学校原稿用紙】

私はまだ責任感がある方に成長したとは思
えていないけど、祖父や他の親戚のように、
責任を持って発言や行動をしたり、自分以外
の他者を優先することができるような人物に
なりたいと思います。